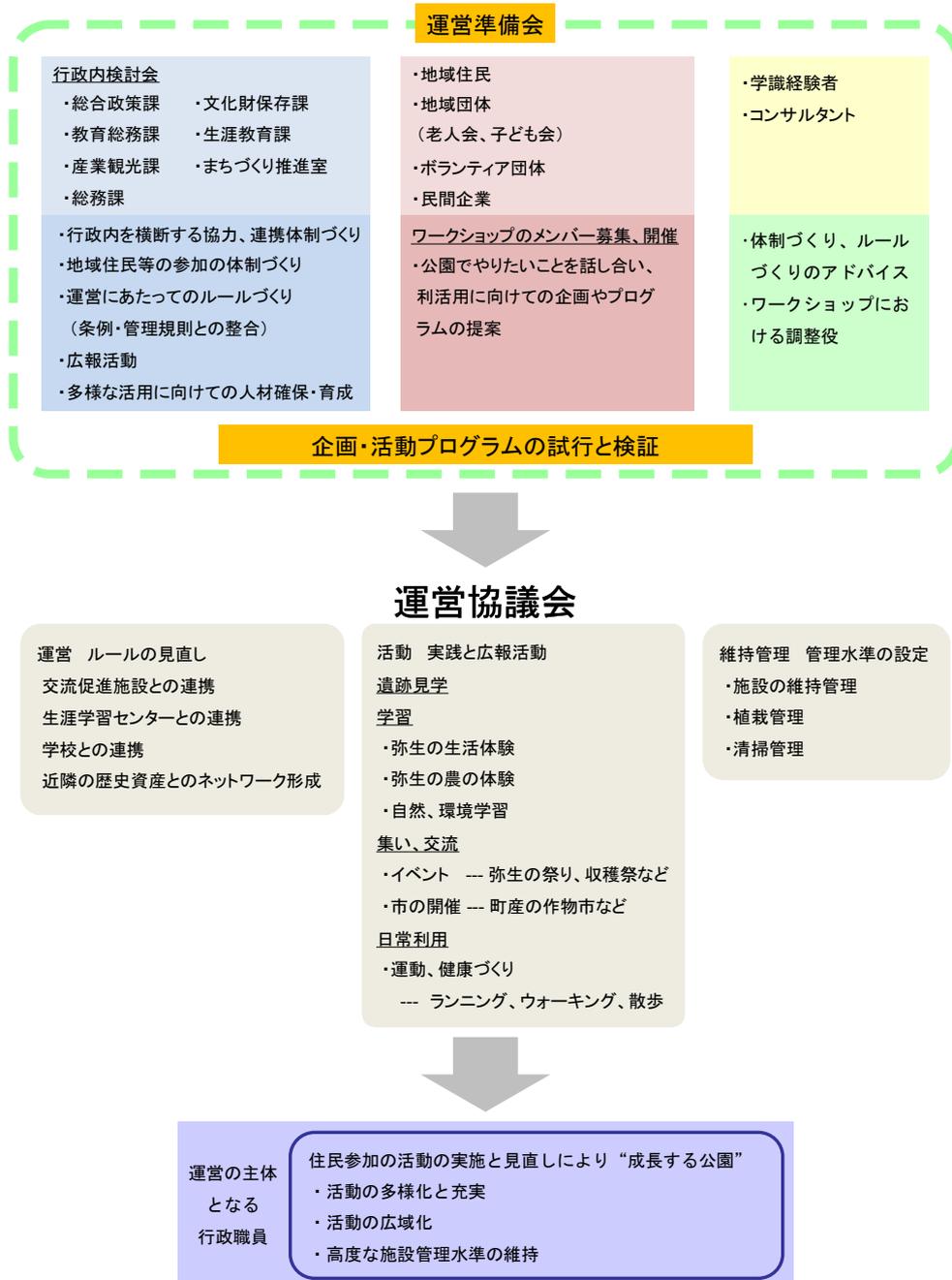


第7章 管理体制と計画の推進

1. 管理運営の方針と体制

(1) 管理運営の方針

史跡公園の管理運営を円滑に進め、多くの人に利用されていくためには、史跡公園、交流促進施設及び唐古・鍵考古学ミュージアムの3者による管理運営面での連携が重要となる。また、地域住民やボランティア等が積極的に参加できる体制とそのためのルールを創り出していかなければならない。



第7-1図 管理運営体制

2. 今後の課題

(1) 景観形成

史跡公園の東側に広がる田園は農用地であり、開発がある程度抑制されているため、将来にわたって景観上の大きな変化は生じないと思われる。そのなかで地権者に対して、点景となる農用施設などに景観上の配慮を求めていく。

国道24号沿いでは、「奈良県景観条例」の基本理念に基づき屋外広告物などに関して史跡の景観にふさわしいものとなるべく、協力を求めていく。また、史跡地内の電柱は地下埋設を図る。

地区計画で計画されている施設については、公共建築として建物のデザイン、色調、サイン表示など史跡の環境にふさわしいものとしていく。

(2) 史跡公園へのアクセス

唐古・鍵遺跡は国道24号からのアプローチとなるが、国道24号周辺の広域交通を担う道路網としては、西名阪自動車道および京奈和自動車道がある。今後は、国道24号とこれらをつなぐ道路網と標識の整備が必要となってくる。

史跡公園の利用者は、交流促進施設の駐車場を利用することとなるが、今後新たに駐車場が必要になる場合や、イベント時に仮設対応の駐車場についても検討が必要である。

公共交通としては近畿日本鉄道橿原線の石見駅が最寄駅となる。また同田原本駅からは史跡公園まで約2.5kmのルートであり、徒歩で約30～40分程度かかることから、駅でのレンタサイクルの充実や、イベント時の送迎対応が望まれる。

(3) 唐古・鍵考古学ミュージアムとの連携

唐古・鍵考古学ミュージアムから史跡公園に至るルートについては、曲がり角での誘導案内や遺跡南側の入口での案内表示などのサイン設置や、歩道の整備が必要となる。

唐古・鍵考古学ミュージアムでは、遺跡出土品の展示と考古学講座などがおこなわれており、史跡公園でのイベント等の情報を共有化し発信できるようにする。また、インストラクターの養成や各種団体の遺跡での活動成果の展示、発表の場として活用されていくことが期待される。

(4) 歴史資産とのネットワーク

a. 近隣の歴史資産とのネットワーク

唐古・鍵遺跡は、纏向遺跡や大和・柳本古墳群とともに大和盆地東南部の原始歴史ゾーンを形成している。このエリアは奈良盆地における弥生時代から古墳時代に至る歴史時間軸部分であり、歴史を活かした奈良県の観光資源に新たな魅力を加えることとなる。

b. 田原本町内の歴史資産とのネットワーク

田原本町内には、唐古・鍵遺跡などの弥生遺跡から古墳などの古代、寺内町などの近世に至るまでの多くの歴史資産が残されている。「国中（くんなか）」の遺跡や古社寺をめぐるコースの設定も必要になっている。